

平成24年度 広島・愛媛交流会議 議事録

日 時 平成24年10月11日(木) 10:30～11:30
場 所 今治市伊東豊雄建築ミュージアム「シルバーハット」

出席者(敬称略)

広島県知事	湯 崎 英 彦		
愛媛県知事	中 村 時 広		
広島県商工会議所連合会会頭	深 山 英 樹		
愛媛県商工会議所連合会会頭	白 石 省 三		

1 開 会

(横田部長)

定刻となりましたので、ただ今から「平成24年度 広島・愛媛交流会議」を開催いたします。本日進行役を務めさせていただきます、愛媛県企画振興部長の横田でございます。よろしくお願いいたします。

開会にあたりまして、愛媛県知事のごあいさつを申し上げます。

2 開会あいさつ

(中村知事)

おはようございます。本日は大変お忙しい中を、広島県から湯崎知事、経済界を代表して深山会頭、白石会頭に、ここ大三島までお越しをいただきまして、誠にありがとうございます。

平成5年から始まった、この「広島・愛媛交流会議」ですけれども、今回で、数えてみますと20回ということになりますが、昨年と同じメンバーで開催できることとなりました。昨年意見交換したことも踏まえて、本日、1年という月日の中で、またそれぞれの視点から意見交換ができるのではなかろうかと楽しみにしているところであります。

今日は、ここも含めてこれまでに2つの美術館を見学していただきましたが、広島も愛媛も含めて、しまなみ海道沿線には多くの美術館、ミュージアムが点在し、文化芸術面で

も魅力を発信しているところですが、この会場は、今年の7月にオープンした「今治市伊東豊雄建築ミュージアム」をお借りしているところであります。関係者の皆様から感謝を申し上げたいと思います。

ここは、伊東豊雄氏の軌跡を展示した日本初の建築ミュージアムとして、全国から建築を学ぶ若者たちが訪れて、学び、未来への設計図を描く、聖地さながらの場所になっているのであります。同時に、サイクリストをはじめ、県境を越えて訪れる多くの人々に、癒やしと交流のスペースを提供していただいているところであります。ここを拠点に、地域に新しい風がもたらされて、島の元気や産業の振興、地域全体の活性化に繋がることを期待しているところであります。

本日は、瀬戸内海の海と島々を背景に、天気も上々でございますので、皆様方と本当に有意義な意見交換をさせていただきまして、両県の交流の更なる促進、そして活性化、発展に繋がることを心から願って、開会のあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(横田部長)

ありがとうございました。

本日の意見交換項目でございますが、お手元の資料2枚目でございます。「東南海・南海地震対策の推進」、それから「瀬戸内地域のブランド化に向けた取組み」で4点、それから「しまなみ海道の通行料金等」に関しまして2点。原則としまして、提案県から先に説明させていただいて意見交換をする。両県共同の場合にはそれぞれに応じて進めさせていただきたいと思います。

それでは、以降は中村知事の進行によりフリートーキングで行いたいと存じます。よろしくお願いいたします。

3 意見交換

「東南海・南海地震対策の推進」

大規模広域的災害に備えた相互支援体制について

(中村知事)

では、これからは座ったままで進めさせていただきます。

まず最初の項目は、「東南海・南海地震対策の推進」の「大規模広域的災害に備えた相互支援体制」について、まず私のほうから少し触れさせていただきたいと思います。

これは、ご案内のとおり、今年の3月に中四国各県で新たな協定を締結したところであり、もちろん、その中でカウンターパートナーをどこにするかというのを議論する中で、広島県と愛媛県がパートナー、カウンターパート制を組むことになったところでもあります。

既に、今年9月1日の総合防災訓練におきまして、相互に被害状況の報告や支援要請を行う通信訓練、連絡員の派遣訓練を実施したところでもありますけれども、今後も、11月には広島県で、12月には愛媛県で図上訓練を実施する予定であり、そこでも両県の職員が相互に参加し合って、支援の内容や手順等の確認を行う予定になっているところでございます。

今後も、両県で情報共有を図るとともに、訓練を積み重ねて継続し、カウンターパート制を実効性あるものにしていきたいと考えておりますので、引き続きご協力をお願いしたいと思っております。

特に、発生したときは愛媛県の被害が甚大でありまして、本当にその点、力添えをいただくことになるなど。起こらなければそれに越したことはないんですけども、もしもの場合、参考までに、南海トラフ巨大地震が発生したとき、愛媛県は、想定死者数1万2千人、広島県が8百人。全壊家屋予想は、愛媛県側が19万2千棟、広島県側が2万4千棟という予測が出ているところでもあります。広島県でも少なからず被害が出ると想像されますが、愛媛県も甚大でありますので、双方で力を合わせて乗り切るような体制づくりをさせていただけたらと思っておりますので、よろしくお願い申し上げたいと思っております。

この点に関して湯崎知事のほうからお願いします。

(湯崎知事)

今、中村知事からおっしゃっていただきましたように、この大きな災害が発生したときに、直ちに被災県の支援を行うというカウンターパート制。これを実効のあるものにしていくためには、日頃の訓練というものが本当に大事だと思いますので、両県の防災体制のあり方を含めて日常的に情報交換をしていく、また訓練を合同でやっていくということを進めたいと思っております。

また、南海トラフでの地震の被害予測は、本当に愛媛県が大きなものになっております。広島県でも影響はあるんですけども、可能な範囲で我々もカウンターパート制に基づいてしっかりと支援をさせていただきたいと思っております。

一方で、災害というのは本当に起こってみなければ分からない。想定したことと違うことが起きるとということもあるというのが、今回の東日本大震災での経験であると思っておりますので、広域的な災害について具体的な対応のあり方というのは、今後も継続的に意見交換をさせていただければと思っております。よろしく願いいたします。

(中村知事)

どうもありがとうございました。経済界のほうからも何かございましたら。深山会頭。

(深山会頭)

はい。東日本大震災のときに、物資の輸送で高速道路網が有効に機能したということから、災害時の陸路輸送については、食糧、水などをはじめ緊急物資、あるいは急患の輸送等々で、被災していない地域からの支援に頼らざるを得ないということがあると思います。各拠点までは輸送できるけれども、それから先の避難施設までの輸送が難しいという事態などにも備えておく必要があるのではないかと思います。特に、高速道路の整備が途中で途切れている場合、いわゆるミッシングリンクの解消は、特に対策が急がれるのではないかと思います。

愛媛県と広島県など、近隣の地域が避難者や緊急の患者などをお互い受け入れるための施設でありますとか医療機関、緊急物資の輸送方法など、双方の協力体制のもとで対応を協議すべき内容はまだまだたくさんあるのではないかと思います。

(中村知事)

白石会頭。

(白石会頭)

四国4県の27商工会議所では、こういう大規模自然災害に際しての広域連携支援に対する基本協定というのを本年6月に結びました。県はもちろんですが、商工会議所のレベルでも、できれば広島県と愛媛県で何かそういう提携ができればいいんじゃないかと思います。

(中村知事)

たまたまこの前聞いた話ですが、今、深山会頭から話があった、拠点まで物資が運ばれてそこから先に持って行くときに、今回の東北の場合、ガソリンがなくなったことで全く配達能力、デリバリー能力が失われたと。そのときに元気に頑張ったのは電気自動車だったらしいんですね。これ、ちょっと意外だったんですけども。だからそんなことも考えておく必要があるのかなと。ちょっと参考までに。

(湯崎知事)

なるほど。

「瀬戸内地域のブランド化に向けた取組み」

「瀬戸内 海の道構想」について

(中村知事)

それでは次に、2つ目の「瀬戸内地域のブランド化に向けた取組み」に移りたいと思います。これはもう、かねてから湯崎知事が提唱されている大きなプランがございますので、「瀬戸内 海の道構想」についてご説明をお願いできればと思います。

(湯崎知事)

はい。ありがとうございます。昨年3月に「瀬戸内 海の道構想」を取りまとめまして、これについては、既にご紹介をさせていただいているところでございます。この構想は、何せ瀬戸内全体というふうに考えていますので、本県のみならず、このエリア一体となって取り組んでいけたらなと思っております。

そういう意味で、自治体の枠組みを超えた連携を呼びかけさせていただきまして、結果として、愛媛県をはじめとして、香川、兵庫、岡山、山口の各県にご賛同いただきまして、今年の5月に、この6県で「瀬戸内ブランド推進協議会」というものを設置することができました。この協議会設置のご賛同と、運営へのご協力とご理解、心から感謝を申し上げます。

現在、この推進協議会では、ブランドプロデューサーというものを立てまして、これは地域ブランドの確立に経験、実績を持った西川りゅうじんさんにやっていただいておりますけども、この瀬戸内ブランド戦略の策定を進めているところであります。

初めての協働の広域連携事業として、観光振興とか情報発信の分野でやはり実績と経験がある方々に何名か集まっていただいて、瀬戸内のいろんな地域資源を実際に感じていただくツアーというのを行うことにしております。それをベースに、今後の、例えば周遊ルートの開発であるとか、あるいは発信方策等について議論するフォーラムというのを、10月の下旬に実施するという事で準備を進めさせていただいております。この事業についても、各県の関係者の皆様に大変ご協力をいただいております。感謝を申し上げたいと思います。

構想を、最終的に実のあるものにしていくためには、各県を越えた瀬戸内という広域のブランドをどう構築していくかという視点や、中長期的な大きなビジョンに基づいた活動計画であるとか、それを運営していく組織体制の構築が必要だと思っております。今回行いますこの広域連携の試行事業の効果なども検証しながら、来年度からは「瀬戸内プラットフォーム」という形で、この「瀬戸内ブランド推進協議会」を発展させていきたいと思っております。そこでまさにこの瀬戸内ブランドの確立を目指した中長期的な活動計画、これに基づいた活動をしていきたいと。本格的なプロモーションであるとか、あるいは商

品開発、プロダクト開発を進めるということに繋げていきたいと思っておりますので、ぜひ愛媛県をはじめとして、皆様には議論にご参画いただいて、そして協働でその案を練り上げていきたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。

(中村知事)

今、「瀬戸内 海の道構想」の基本的な考え方と、今後の展開についてお話しいただきましたけれども、そもそも観光に県境というのはあまり意味がないと思っています。ただ、今まではどちらかといえば自治体単位で動いてきました。県ならその県、市ならその市の中で。意外と連携って取れてないんですね。だからある意味では、新しい挑戦になるのかなというふうにも思っています。観光客のニーズも捉える必要がありますし、継続的にリピーターを生んでいくということも大事な要素であると思いますし、そのためには、それぞれの県の持つ観光資源を補完し合うというふうなことにチャレンジをして、それから、テーマ性、周遊性、「瀬戸内 海の道構想」はまさにそこに切り込んでいっちゃると思いますが、新たなチャレンジという意味での魅力的な観光ルートというのをつくりあげていくということではないかなと捉えています。

広島県の呼びかけで、今年の5月、瀬戸内6県で、今お話のあった「瀬戸内ブランド推進協議会」が発足したわけですけども、じゃあ私も、広島のこと、岡山のこと、香川のこと、つまびらかに資源を押さえているかということとそうでもないんですね。県内ですらそうでもなかったですから。だからやっぱりお互いこういった交流をすることで、まず知事や両会頭も、それぞれの持つ資源をお互いに共有するということがとても大切なことなのではないかなと思いました。その中からまたいろんな発想が生まれてくると思いますし、本当の意味での「瀬戸内 海の道構想」というものに繋がってくるのかなと思います。ですから、どこかで何か、知事、それから各県の会頭が参加して「今年はどこどこをちょっと見てみようか」とかいうことも必要なのかなという感じがしました。特に、後ほど触れますけど、広島県と愛媛県は「瀬戸内しま博覧会(仮称:以下同じ)」やサイクリングのことで、協働で何かをしようという目標も立っておりますので、世界に通用するような瀬戸内ブランドの確立を目指していきたいと思えます。

たまたま今日感じたことは、この会場もそうなんですけど、しまなみ海道沿線は美術館の宝庫だということもあって、これもいい切り口になるなということを感じました。本県には、この伊東豊雄さんのミュージアムもあれば、「大三島美術館」もあれば、「ところミュージアム大三島」もあれば、「岩田健 母と子のミュージアム」もある。広島には平山郁夫さんの美術館もあれば、「しまごと美術館」もある。スタンプラリーとか、あるいは俳句ポストとか、仕掛けは何でもいいんですけど、それを全部制覇すると広島県ないしは愛媛県からプレゼントがあるとかですね。奇数月は広島県、偶数月は愛媛県となると2回は来るだろうというような、楽しい企画なんかも生まれていくんじゃないかなと。美術館というのも1つの切り口になるなということ、今日はこの会場に来て改めて感じた次第です。

このあたりのことについて、深山会頭のほうから。

(深山会頭)

今話がありましたように、私も、しまなみ海道には、本日の会場も含めて美術館が点在しておりますので、やはりサイクリングやウォーキングを楽しみながら美術鑑賞、あるいは海の幸を堪能できる宿泊施設などを協働して実行していけばいいのではないかと思います。

それから、瀬戸内の多島美を楽しめるサイクルロードを売り物にして、海外から多くのサイクリストを呼び込むイベントを成功させるには、やはり自転車のサイクリング専用標識の整備、英語、中国語、ハングル語などのサイクルマップの作成でありますとか、あるいは通訳ボランティア、それからサイクリングインストラクターの待機でありますとか、自動車のJAFに相当するような、自転車が故障した場合の対応ですね。これから数が増えてきた場合には、やはりそういったものも要るのではないかという気がしておりますので、協働して対応できればと思っております。

(中村知事)

白石会頭。

(白石会頭)

今、愛媛県は秋祭り、松山は既に終わったんですが、これから西条、新居浜とピークになるんですけども、私ども松山商工会議所では、夏に松山まつりというのを、高知とか徳島に比べて大分見劣りがするんですが、今一生懸命やってるんですけども。そういうお祭りとかそういうものをもう1回見直すということと、後で出てくるかもしれませんけども、先日「坊っちゃん劇場」の「誓いのコイン」のロシア公演が行われ、私も参加したんですが、ものすごく好評でした。今回のロシア公演は、国内においても、ものすごく宣伝になったのではないのでしょうか。国内のいろんなところから来ていただけるようになるものと期待しております。ああいう催し物を見直して、外にPRできるようなことができればいいんじゃないかと思います。

「瀬戸内しま博覧会(仮称)」、「しまなみ海道・国際サイクリング大会(仮称)」の開催について

(中村知事)

それでは引き続き、今の「瀬戸内 海の道構想」とも関連しますけれども、深山会頭からちょっと出していただいた「しまなみ海道・国際サイクリング大会(仮称:以下同じ)」と、それから「瀬戸内しま博覧会」に議題を移させていただきたいと思っております。

昨年度の交流会議で、湯崎知事のほうからは「瀬戸内 海の道構想」、私のほうからは「大・島博覧会」への挑戦と、お互いこういうテーマを出したわけでありませけれども、この「大・島博覧会」にもご賛同いただきまして、誠にありがとうございました。

以降、広島県と関係市町と連携して検討を進めてきているところでありますが、その中で、今年の6月に、愛媛県と関係市町での「大・島博覧会準備委員会」が立ち上がりました。それを受けて島単位で説明会を開催するなど、地元の気運醸成に努めているところでありますけれども、その集大成として、今日は午後には大三島でシンポジウムを開催することになっているところであります。まさにこのシンポジウムをキックオフとして、平成26年度の、仮称であります「瀬戸内しま博覧会」へと繋げていくことができればと思っておりますし、この1年、島を巡りながら、本当にこれは全国へ、全世界へ、十分発信できるイベントになるんじゃないかなということを感じました。両県がパートナーとしてやることによって、当然、宣伝力も2倍、単純には2倍ですけども恐らく3倍4倍になるのではなかろうかと期待しているところでございます。

今月中に実行委員会を立ち上げて、関係団体が一体となって準備を進めていきたいと考えておりますので、引き続き、連携、協力をよろしくお願い申し上げたいと思います。

また「瀬戸内しま博覧会」のメインイベントとして、ぜひぜひ、しまなみ海道での世界的な規模のサイクリング大会を実現させたいと思っております。こうした取組みを通じて、情報発信、そしてまたその後の「サイクリストの聖地」としてのしまなみ海道という位置付けが生まれるならば、これは長い目で見た両県の観光振興にも大きく寄与するのではなかろうかと思っております。

特に、先般、湯崎知事と一緒に台湾を訪問して、お互いいろんな勉強ができたのではなかろうかと思っております。先ほど深山会頭のお話で、例えば故障したときとか、そういうときにどうするのかというのも大きなテーマなんです。たまたま今回、台湾の日月潭というところに行ったときにそのヒントを見つけたような気がしたんです。レンタルショップへ行くと、手に持てるぐらいのGPS機能付きのランシーバーがレンタルした人に渡されるんですね。GPS機能が付いていますから、ショップの中で大スクリーンに、今ナンバーいくつの自転車がどこを走ってるかが全部確認できるようになっているんです。故障が起こったときは、そのランシーバーで「パンクしました」と言うのと車がバツと行くというシステムです。湯崎知事と話しながら、これなんかが広島と愛媛で両側にあったら、今、深山会頭がおっしゃったような問題は解決すると。どこまでできるか分かりませんが、あのあたりもヒントになるなということを感じましたので、これから実行委員会等々で議論を積み上げていくことができたらと思っております。

じゃあ湯崎知事から。

(湯崎知事)

はい。「瀬戸内しま博覧会」のご提案をいただきまして、これは本当に「瀬戸内 海の道

構想」の趣旨にもびったり合うものでありまして、我々としても大賛成で、連携をして取り組んで参りたいと思っております。

この博覧会、もちろんこれから準備をして、しっかりと成功させていきたいと思っておりますけれども、大切なことは、このイベントの終了の後もですね、やはりこの盛り上がりを維持していくというかですね、そして継続的にいろんなイベントをやっていくということもあると思いますし、また人材育成を通じて活気自体を高めていくということが重要なことというふうに思っております。そういう意味では、「瀬戸内しま博覧会」を通じて課題も抽出しながら、今後の事業展開に生かしていくということが必要なと思っております。

サイクリングについては、先般、中村知事と日月潭をご一緒させていただいて、あそこコースがCNNの選ぶ世界トップ10のサイクリングコースだということで、本当に美しい、またアップダウンも適度にあって、最後きつかったですけど、楽しいコースでしたですよ。それと比較しても、しまなみのこの雄大さとか、あるいは変化の多様さというのを見ると、本当にこれは世界に誇れるところであるというのは間違いがないというのを、改めて確信をしましたので、ぜひですね、このしまなみ海道を使った「国際サイクリング大会」というのは実現させたいと思っておりますし、それを機に世界の人に知っていただければ素晴らしい成果になるんじゃないかなと思います。

いろんな課題もですね、もうご存じのとおり警察あるいは本四を含めてございますけども、頑張っって連携して乗り越えていければなと思います。よろしくお願いいたします。

(中村知事)

今お話があったように、国の問題もあります。これは2人が力を合わせて、しつこくやるということだろうと思います。では経済界のほうから、今度は白石会頭。

(白石会頭)

さっきの自転車の話ですけど、私、このあいだ、「誓いのコイン」のロシア公演の応援と兼ねて、その後オランダに行ってきたんです。アムステルダムが、とにかく自転車最優先なんです。歩行者がうろうろしていたら自転車にぶつかる。その代わり自転車道が、すごく市内が整備されていて、みんな自転車中心の生活になっている。

こういうイベントも1つの盛り上げですけど、やっぱり日常の、生活や観光その他においても自転車がもっと使えるようなソフト・ハード両面での整備ができれば非常にいいと思うんですが。費用も大分かかるそうですけど。本当にものすごくよくできているのにびっくりしました。

(中村知事)

深山会頭。

(深山会頭)

「瀬戸内しま博覧会」については、両県の観光業者でありますとか、交通運輸関係業者など、これから関連機関で多くのパッケージ商品が売り出されると思うのですが、例えばコンサートでありますとか、あるいは特産品の販売イベントでありますとか、これを契機に大いに盛り上げていければと思います。私は大賛成でございます。

(中村知事)

ありがとうございます。

広域観光及びインバウンドの推進について

(中村知事)

それでは、世界というものを視野に入れた話になりますけれども、興味深いテーマの「広域観光及びインバウンドの推進」ということで、湯崎知事のほうから触れていただけたらと思います。

(湯崎知事)

はい、ありがとうございます。インバウンドにつきましては、愛媛と広島、また山口の3県ですね、それから関係市で「瀬戸内国際観光テーマ地区推進協議会」というのを組織させていただいて、連携をして取り組んでいるところですけども、特にこれは、中村知事とはご一緒させていただいて、台湾に行ったり、いろんな努力をしております。

ちょうど今朝も、台湾の一行が28名ほど、台北市のロータリークラブ11クラブ組織されて、28名が来られておまして、5本でしたっけ、来られる1つの一環として来られました(下記)。これは本当に素晴らしい、これまでの活動の成果の1つじゃないかなと思っておりますけれども、広域観光やインバウンド推進のためにですね、今後、台湾はもちろんのこと、その他のいろんな各国の現地旅行社とのツアー造成を一層促進していく必要があるかなと思っております。

今、ブルーラインの整備であるとか、あるいはサイクルオアシスの整備とかをですね、させていただいておりますけども、こういった整備を通じて、まさにこの「サイクリストの聖地」、「サイクリングパラダイス」ですね、国内外から高い評価を受けて人気が高まっていくと思います。今後は引き続き、標識の多言語表記であるとか、先ほどのGPSのような、サイクリストにとって非常に便利なサービスというものも考えていかなければいけないと思っております。引き続き両県で協力をして誘客を図りたいと思います。

しまなみ海道等を訪れる台湾からのサイクリングツアー(平成24年7月~)、
年内に5本催行予定のうち、当日は第3団が来訪中であった。

このサイクリングロードは、いわゆる「瀬戸内 海の道構想」の1つの大きなテーマでもあります。まさに世界に誇れるブランドの1つとして、つくっていきけるんじゃないかなと思っておりますので、この「ブランド化」と認知をいただいて、本当に「サイクリングパラダイス」というラベルを皆さんに貼っていただけるように努力をしていければなと思っておりますが、その一環として、今は県、あるいは市で努力しているところですけども、これは国にも参画してもらって、本当に世界に誇れる、日本を代表する1つのテーマの土地になるんじゃないかなと思いますので、「ナショナル・サイクリングロード」みたいなものを提案していったら、国も参画してもらおうというようなことを進めたらどうかと思っておりますので、ぜひまたいろいろとお知恵をいただければと思います。

(中村知事)

ありがとうございます。この広域観光については、先ほどの話のとおり新たな挑戦だと思っているのですが、これはしまなみ海道があればこそできる切り口なのかなと。言わば両県にまたがっている、そして両県とも空港も所有している。広島は大きいですから国際便も充実しているんですが、愛媛県も小さいとはいえソウル便と上海便が飛んでいますので、ある意味では、広島に入り松山から帰るとか、松山から入って広島から帰るとか、そういうやり方っていうのはあまり今までなかったと思うんですね。旅行会社にはそういうプランがあるのかもしれないですけど、大々的に、両県の協力のもとに、一つのインバウンド対策として考えるっていうのは、恐らく全国でも初めての試みになるかもしれないと思っています。

サイクリングは、今、台湾を中心に両県でアプローチを掛けていますけども、アジアでは非常に大きな広がりを見せているそうなので、それこそ韓国や中国へとどんどん広げていく可能性も出てきますし、そういう中での両県のタイアップというのが、非常に面白い可能性を秘めているのではないかなと個人的には強く感じています。先般、台湾にお伺いしたときにこんな話をしました。広島にあって愛媛にないものがある。愛媛にあって広島にないものがある。広島にあって愛媛にないものは台北 松山の航空路線だと。愛媛にあって広島にないものはジャイアントストアだと。両方ともそれを備えてタイアップを図っていきたいっていうような、そんな話をさせていただいたんですけども、これがそろえば、また一層可能性が広がっていくように思いますので、お互いが協力し合って、充実した整備や、そういった航空路線のほうにも繋げていくことができたらと思っております。

それでは、深山会頭。

(深山会頭)

先ほども話に出ましたが、私ども広島商工会議所では、民泊を伴う体験型の修学旅行の誘致活動を展開しておりまして、その成果として、平成19年度から24年度、5年間で、関東、関西、中部の中学、高校を中心として、累計で57校、1万50人の成果が出ており

ます。1年間の目標を1万人というふうに掲げておりますのですが、こうした漁業体験などの体験教育の一環という観点からは、愛媛県をはじめとする四国地方にも多くの魅力があると思っておりますので、ぜひ今後の展開を図る中で、瀬戸内海全体での展開も検討していきたい。例えば、漁業体験だけでなく、このしまなみ海道を舞台としたみかん農園の作業体験でありますとか、今治のタオル工場あるいは造船工場の見学のセットなど、様々な仕掛けが検討できるのではないかと思いますので、今後の展開への意見交換、協議等、引き続いてお願いしたいと思っております。

(中村知事)

白石会頭。

(白石会頭)

このあいだ、道後温泉の神輿を台湾の新北投温泉ですか、こちらのほうへ2体寄贈して、向こうでも多分子どもたちが担いで、そのあとは台北市の庁舎と北投温泉に展示されるというようなことで。こういういろんな交流とか、先ほどの「誓いのコイン」のロシア公演における交流もそうですけども、そういうものがどんどん増えていければいいと思います。

また、このあいだ台南市で工業関係の交流会もしたんですが、来年はまたインドネシアで予定されているようですけど、そういういろんな交流をどんどん進めていくことが、これからのインバウンドを増やすうえでも大事じゃないかなと思います。

(中村知事)

これは、台北市の中に松山区というところがあって、それで松山市と松山区が交流していて、その中に新北投温泉というところがあるんです。北に投げると書くんですけど、それが台北市の中で一番大きな温泉で、松山だったら道後温泉。これは民間交流なんですけど、新北投温泉と道後温泉が姉妹関係を結んで。新北投温泉は確か加賀屋さんが出ているところですよ。石川県の。かなり有名な温泉街で、私も泊まってはいないんですけど1回行ったんですが、本当に温泉街。そんな関係で、道後温泉の旅館協同組合が向こうと交渉を組んだことから、今お話があったことが実現したんです。

しまなみ海道を活用した農林水産物のPR・販売拡大について

(中村知事)

続いて、「しまなみ海道を活用した農林水産物のPR・販売拡大」について、私のほうから少し提案をさせていただけたらと思います。

しまなみ海道の島々は、やはりこの傾斜地と海の恵みから、非常に糖度の高い良質なかんきつが、愛媛県側でも広島県側でも、共通の農林水産物として収穫が盛んなところにな

っているわけであります。このかんきつは、両県にとって島の非常に重要な基幹産業になっていると思いますので、協力して国内外に、しまなみ海道地域が一体となってかんきつのPRをするということが、更なる知名度アップ、認知度の向上、販売拡大にも繋がるのではなかろうかと思っています。

また、漁業もそうだと思うんですけど、やっぱり島で採れる魚って言ったらそれだけで新鮮に響くんですね。

(湯崎知事)

おいしく聞こえますよね。

(中村知事)

そういうところも両県でPRできる1つの切り口になるんじゃないかなと思っていますので、先ほど湯崎知事が呼びかけられた「瀬戸内ブランド推進協議会」の活動にも組み込み、連携しながら、こうした産物の販売拡大、PRに取り組んでいきたいと思っています。

また、ぜひ連携しながら、しまなみ海道を訪れる台湾であるとか外国の方にも、しまなみ海道地域の生産団体と連携して、サイクリング客に「これだけ素晴らしいものがあるんだ」と、特にかんきつは非常に手軽に食べていただけるので、そういう提供をするような取組みも実施していきたいと思っていますので、ご協力のほどよろしくお願ひしたいと思ひます。

じゃあ湯崎知事のほうから。

(湯崎知事)

はい。ありがとうございます。本当にちょうど今みかんがなり始めてて、サイクリストが途中で寄ってみかん狩りをしながら、ちょっと疲れたらみかんを採ってもらって。そういう体験も面白そうだなというふうに思いますし、おっしゃるように、本当にこのしまなみ海道を活用したPRというのは効果があるんじゃないかなと思います。

今、広島では首都圏での広報、特にレモンを中心としていろいろ努力をしているところなんですけども、やはり瀬戸内というのが共通のイメージになってきますので、ぜひこの瀬戸内ブランドという共通イメージを活用して、新たな販路開拓を行って、両県にメリットがあるようなことを進められたらなと思います。

いろんなイベントで共同PRするというのもあると思いますし、これはサイクリングだとかマラソンだとか等々を含めてですね、そういうイベントでのPRもあると思いますし、更には、愛媛でもやっていらっしゃると思うんですけども、広島でも海外に向けての販路開拓を進めていますので、海外での協力というのも検討したらどうかと思っています。

(中村知事)

はい。特に海外っていうと、常におそらく県単位でやるとロットの問題が出てくるので、農林水産物の場合。両県、複数県でやったほうが多分ロットはまとまりやすい可能性も出てくるんじゃないかなと思いますね。

(湯崎知事)

そうですね。

(中村知事)

その点、深山会頭。

(深山会頭)

はい。今月の27、28日に、恒例でございますが、広島県の広島城周辺地域で「ひろしまフードフェスティバル2012」を開催する予定でございます。これ80万人くらい、2日間でございます。この中で愛媛県からも特産品の実演販売があります。観光のPR活動をしたりしております。

更に11月24日、25日には「えひめ・まつやま産業まつり ~すごいもの博2012~」、これが松山市の城山公園で開催されて、広島のお好み焼きでありますとか、来年開催予定の「全国菓子大博覧会」のPR活動をしていただくということになっております。

今後とも、両県の各種イベントの相互交流であります協力事業による全国発信など、しまなみブランドのPR、定着を図っていきたいと考えております。よろしく申し上げます。

(中村知事)

この「フードフェスティバル」は毎年開催ですか。

(深山会頭)

毎年、はい。この時期に、10月に。

(中村知事)

何回目ぐらいなんですか。

(深山会頭)

もう10回にはなっていないかな、何回かな。

(中村知事)

行きたいなあ。

(深山会頭)

ぜひ。去年はちょっと大雨が降って大変だったんです。

(中村知事)

白石会頭。

(白石会頭)

このあいだロシアに行ったときに、愛媛県のお酒が向こうで販売されて。日本料理店で。梅錦さんの。

(中村知事)

あったんですか。

(白石会頭)

結構、継続的にしているらしいです。やっぱり食べ物と言えば、私もお酒が好きなもんで。ロシアではウォッカですし、中国は白酒、日本酒はやっぱり大吟醸が一番おいしいんで、食べ物と一緒にお酒も大いにPRすればいいんじゃないかと思います。

(中村知事)

お酒好きの会頭ならではのご提案で。ありがとうございます。

「しまなみ海道の通行料金等」

本四高速の全国共通料金の導入に向けた取組みについて
自転車等軽車両通行料金の恒久的な無料化について

(中村知事)

それでは続きまして「しまなみ海道の通行料金」、懸案事項でありますけども、このテーマに移りたいと思います。これには本四高速の全国共通料金制の問題と、それから自転車等軽車両の通行料金の問題、2つ大きな課題があると思いますが、両方一括して湯崎知事のほうからご発言いただけたらと思います。

(湯崎知事)

はい、わかりました。ありがとうございます。まず本四の共通料金の導入ですけれども、これはずっと昨年度、中村知事を含めて各県で努力をして交渉しましてですね、この海峡

部と他区間とが大きな料金差とならないように配慮するということが実現しそうなところにやってきていると思います。国土交通省で、社会資本整備審議会の道路分科会の中に「国土幹線道路部会」というのが設置されるということでありまして、この中で本四の全国共通料金水準導入というものに向けた方針の検討を行うものと、我々、理解をしております。これまで全国知事会等でも全国的な理解を求めてきたところですけども、今後とも中四国一体となって、国に対して働きかけが多くなっていく必要があると思っております。また、来週 16 日に「中四国サミット」がございますけども、ここで連携を確認して、先ほどの「国土幹線道路部会」におきまして、本四出資団体の意見を述べる機会を求めていくといったようなことが必要かと考えております。

それから、自転車の通行料金の件でありますけども、これも先ほどから言っておりますように、両県で今、努力をしながら、このサイクリングルートの整備を行っておりますし、この自転車というのは、広域で取り組む、そして世界にアピールできる大きなテーマであると思っております。こういったことを踏まえまして、今後も観光客の皆さんが、気軽にこのしまなみ海道を活用してサイクリングを楽しんでいただくと、それによってこの広域観光、本当に全国に先駆けたモデル的なものとして発展していけるように、この通行料金の無料化というものを何とか実現していきたいと思っておりますので、ぜひ引き続き、関係市も含めて連携をさせていただいて取り組みたいと思います。

(中村知事)

はい。今年の前半は、特に年間 53 億円にも上る、関係府県市の中では一番多額な出資を強いられていた広島県と愛媛県でしたので、この出資は約束どおり終わりだという地方の意見と、いやいや延長だという国の意見の衝突になりましたけれども、いい意味で広島県の湯崎知事と私が役割分担して、私がけんかを売って破壊して、湯崎知事がまあまあと取りまとめていただくということで、出資は両県共に約 30 億円でしたか、減額ということで、2 年間限定というふうな決着をみたところであります。

我々の考え方としては、それ以降は全国プール制に組み込みだということですが、これの実現には、実は国会の法改正が必要になって参りますので、その約束を履行していただくためには、国会でしっかりと法案改正をしていただかなければならないということで、特に両県の、またあるいは 10 府県市の、衆参、与野党を問わない国会議員の皆さんにその問題意識をしっかりと持っていて、来るべき都市部の議員との決戦に向けて準備をしていただきたいということだろうと思っております。関係自治体としっかりとそのあたりのチームワークを組み合わせながら、実現、約束を果たしていただくということに向けて、全力を尽くしていきたいと思っております。

それから自転車については、もう湯崎知事からお話があったとおり、なんとかこの悲願である無料化ということを実現したいと思っておりますけれども、なかなかこれもハードルが高くてですね、その中で、ただ単に実現を求めるということを中心にしながらも、

どうすればできるのかという視点に立っているいろんな提案もしていく必要があるのかなというふうにも思っていますので、これから両県でしっかりとタイアップしながら、世界の方が訪れたときに当たり前の風景を実現するために、粘り強く追い求めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

この点に関して、白石会頭。

(白石会頭)

大変なことだろうと思ひますけども、ぜひよろしくお願ひいたしたいと思ひます。

(中村知事)

深山会頭。

(深山会頭)

通行料金の低廉化によって、愛媛、広島両県の産業、観光などの交流が更に促進されて大きな経済効果が期待されると思ひますが、その一方で、定期旅客航路の乗客の減少など、フェリー各社の経営状況、燃料費の高騰も加えてかなり厳しい状況が、現在もそうですが、更に予想されます。そういったフェリー利用者の減少によって、航路の廃止であるとか便数の減少などで、島しょ部での大切な生活の足が少なくなるという可能性もありますので、フェリー各社への影響、更には各社の対応などを把握するとともに、必要に応じた対策をやはり検討していくべきではないかというふうに常々思っているところでございます。

(中村知事)

今のご懸案、もう本当に当然のことでありまして、実は本四架橋のこの料金問題に触れるときには、必ず、当然のことながら船の航路に影響すると。それは国策で考えていく問題ですから、道路については全国共通というのは国策に沿っているのではないかと、それに伴っての船への影響というのも当然配慮するということを、必ず付記した議論をしてきておりますので、この点についても、ご指摘のようにしっかりとテーマとして取り組んでいきたいと思ひます。

「 P R 事 項 」

(中村知事)

以上で、予定していた議題の議論は終わらせていただきますけれども、最後に、せっかくの機会ですから、両県からの P R をさせていただきたいと思います。まずは広島県のほうから、湯崎知事、お願いできたらと思います。

(湯崎知事)

恐縮でございます。それではまず菓子博ですけども、2013 年 4 月 19 日から 5 月 12 日と、ゴールデンウィークを挟んで「全国菓子大博覧会」を行います。これは 4 年に 1 回行う全国規模のイベントなんですけども、「世界にとどけ！笑顔をむすぶ お菓子のちから」というテーマで行います。実は、厳島神社の 15 分の 1 スケールモデルをお菓子でつくりまして。これ 15 分の 1 って結構大きくてですね。

(中村知事)

できるんですか。

(湯崎知事)

今、一生懸命つくってまして、1 年ぐらいかかるんだそうです。今ですね、皆さんが頑張っていております。

菓子博は 24 日間ありますし、ゴールデンウィークもありますので、ぜひ皆さんおいでいただきたいと思います。それで本日は早速、特別にですね、中村知事と会頭にそれぞれご招待券を。実はこのためにご招待券をつくりました。

(中村知事)

どうもありがとうございます。

(白石会頭)

どうもありがとうございます。

(湯崎知事)

来年でございますので。

(中村知事)

しかし厳島神社の 15 分の 1 のあれは、つくっても誰も食べることはないんですかね。

(湯崎知事)

いや、食べちゃいけないです。眺めて楽しめます。ぜひお願いいたします。

それから、次の「ひろしまフードフェスティバル 2012」については、既に深山会頭から申しあげましたので、簡単にさせていただきますけども、10月27、28日に開催いたします。これはすぐに、2週間後でございますので、ぜひですね、こちらもお時間あればおいでいただきたいと思います。

それから、先ほどもありましたように、「えひめ・まつやま産業まつり ~すごいもの博 2012~」で、我々出展をさせていただいておりますので、こちらは感謝を申し上げたいと思っております。ちなみに「ひろしまフードフェスティバル 2012」のほうは、松山市と東温市と砥部町の広域観光連携推進協議会というところがブースを出していただくことになってまして、観光PRであるとか、どぶろくを出していただくことになっております。

それから最後ですが、「ピース・アーチ・ひろしま」というのも、これも実は来年企画をしております。これは実は広島、これまでももちろん平和についていろんな訴えをしてきたところなんですけれども、来年はこれを音楽を通じて世界に平和を発信していこうというプロジェクトとして、この「ピース・アーチ・ひろしま」というのをやっております。音楽というのは、非常に世界中の人に届けることができると。言葉を越えたメッセージを届けることができるということで、世界のトップアーティストに来ていただいて、世界が、まさに世界の人に注目をしてもらおうというようなコンサートにしたいと思っております。これも1週間ぐらいの開催期間を設けて、何回かコンサートをやりながら、同時にピースフィールドというものをつくりまして、いろんな展示もしながら平和について考えようというものになっていますので、ぜひですね、これもご来場いただければと思いますのでよろしくお願いいたします。また詳細は今後ご連絡をさせていただきたいと思います。

(中村知事)

期間はいつごろですか。

(湯崎知事)

期間はですね、7月の終わりから8月の頭にかけてまして、8月6日の直前にかけて行います。その間、いろんなイベントというか、フォーラムをやったり、いろんな市民講座みたいなのをやったり、そういうことをやる予定にしておりますし、もちろんメインはコンサートでありまして、クラシックコンサートであるとか、あるいはいろんな世界の地域の音楽をやってもらったりとか。そしてメインコンサートもやって、これは本当に世界中が注目するようなものにしたいと思っております。

(中村知事)

清盛はよろしいですか。

(湯崎知事)

清盛ですね、ありがとうございます。清盛もいよいよ佳境に入って参りまして。今度の日曜日に、いよいよ現在の巖島神社ですね、これまで出てきた巖島神社はビフォー清盛の巖島神社だったんですけど、清盛が建てた巖島神社が次回出て参ります。いよいよ佳境に入って参ります。瀬戸内を平定したという意味では、もちろん愛媛との関わりもある清盛でございます。これも最後まで見逃さずに、引き続き盛り上げていきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

(中村知事)

どうもありがとうございます。では私のほうから、愛媛のPRをショープレさせていただきたいと思っております。

今「えひめ・まつやま産業まつり ~すごいもの博 2012~」についてお話しさせていただいたところでございますけども、実はこれは、それまで松山市は松山市で産業まつりってというのがありまして、愛媛県は愛媛県で産業まつりってというのがありまして、どちらも中途半端な規模で、場所も目と鼻の先で、日にちはちょっとずれていると。松山市長と話して、合同開催して一気に予算も膨らまして大規模化しようってということで、合体して、お堀の中に完成した城山公園を使って去年から始めた産業まつりなんです。やっぱり予測どおり大幅にスケールアップして、来場者もどんどん増えるという効果が出ましたんで、そこに更に広島にも加わっていただきまして、やっぱり広島の食べ物とかみんな非常に大好きな人たちは多いですから、その魅力づくりに、また連携というものを通して一役買っていただけたらと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

それからもう一つは、東温市にできまして8年目を迎えております、例の、1回来ていただいた「坊っちゃん劇場」なんですけども、「誓いのコイン」は本当に驚くべき、ロシア大使が初日に見えられて広まりを見せて、ロシア側からも「ぜひロシアでも公演を」ということで。ロシアのほうからも予算を出していただき、外務省も出していただき、スポンサーも付いていただき、瞬く間にロシア公演が決まっていったんです。ロシアで4回の公演をやりまして、もう本当に全員スタンディングオベーションのような。日露戦争という題材が背景にあるんでどうだろうかという不安感があったんですけど、やっぱり国境を越えた愛というのが、国境を、民族を越えて伝わるという、そんな大盛會に終わりました。

今年は「幕末ガール」、オランダお伊ネをテーマに上演しております、これはもともと宇和島の伊達藩が、村田蔵六やそういった方々を招き入れた、人材を招いたということを引きかけにして、オランダお伊ネも来ているんですね。日本初の女医さんということで、その人生を描いた作品を上演中でございますので、お時間があつたらぜひ足を運んでい

だけたらと思います。

3つ目が、もうこの11月で6カ月間の区切りをつけるのですが、今年の3月に宇和島まで高速道路が開通したことを受けて、「えひめ南予いやし博 2012」を行ってきました。今、宇和島市では、伊達政宗公の長男が治めていた地でありますから、その関係で、宇和島伊達家の今のご当主と仙台伊達家のご当主が話し合いまして、協力をしようということになりました。宮城から初めて県境を越えて出すということになったのですが、伊達政宗公が使用していた現物の鎧、具足、それから松島の瑞巖寺、歌にも出てくる瑞巖寺が所有している木像、これを宮城から初めて出していただきまして、現在、宇和島の伊達博物館に展示中でございます。もう2度と出ることはないだろうと言われておりますので、ぜひ広島の方にもこのチャンスを逃さずにご覧いただけたらと思います。

もう1つは、宇和島伊達家が所有している、教科書にも載っている豊臣秀吉の肖像画、これ、宇和島伊達家が現物を持ってるんですよ。この期間に出していただいておりまして、レプリカをつくるだけで1億円という代物です。本物は多分もう数十億円の価値なので、それもガラス越しですけど今だったらご覧いただけますので、ぜひ広島の皆さんにもお越しいただけたらと思います。

最後に、これは今年から始めたんですが、四国と言えば弘法大師、お大師さん。私の知人に和紙人形の芸術家がいらっしゃいまして、実はこの方、平家物語の作品もつくっています。これは確か東京の八王子かどこかがぜひ欲しいってということで買い取って、美術館つくっちゃいました。「観 平家物語」という作品なんですけど。その後につくられたのが「空と海 空海」。空海の誕生から、四国での修行、遣唐船に乗って最澄と海を渡って長安の都で修業する時代、帰ってきて布教をし、悟りを開き、天に上がられていくという一生を、300体の人形で表現する作品を、なんとか無償で貸していただきまして。今、ちょっと南のほうですけども西予市というところに「愛媛県歴史文化博物館」があります。そこで常設展示をすることになりました。これはもうお遍路さん必見の作品になっていると思いますので、ぜひご案内をさせていただきたいと思います。いつでも常設展にあるので、近くを通った際にはぜひお越しいただきたい。ただでございます。以上でございます。

それでは、大変長時間にわたりましてありがとうございました。以上で意見交換を終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。

4 閉会あいさつ

(横田部長)

ありがとうございました。本日は、両県が交流、連携を進めていくうえで、大変参考となるご意見をお伺いすることができました。なお、対応が必要となる事項につきましては、両県が中心となって積極的に取り組んで参りたいと考えております。

それでは、閉会にあたりまして、湯崎知事からごあいさつをいただきたいと存じます。よろしくお願いいたします。

(湯崎知事)

はい。ありがとうございます。本日は中村知事、そして白石会頭のご配慮をいただきまして、この「広島・愛媛交流会議」、考えますと大変長い歴史になっておるわけですが、有意味な場を持たせていただきまして本当にありがとうございました。

また、白石会頭と深山会頭、経済界からの大変貴重なご意見をいただきまして、改めて感謝を申し上げたいと思います。

本当に、ここ「今治市伊東豊雄建築ミュージアム」、先ほどの「ところミュージアム大三島」も含めて、大変素晴らしいものがやはりたくさんあるなど。私も実は初めて訪問させていただいたんですけども、本当に来るたびにいろんな発見がある。また、今こうやって海を眺めておまして、子どもの頃、小学校のとき毎年大三島に海水浴に来ておったんですけども、それを思い出して、一時は瀬戸内海も大変汚れてましたけども、今は本当にまたきれいな海に戻って、素晴らしい、これを改めて実感をしていただきまして、広島県とそして愛媛県と力を合わせて、この瀬戸内海、また、このしまなみ海道を連携して売り出していくと、また、地域の活性に努めていくということは、本当に有意義だなというふうに感じておりますので、今後とも引き続きよろしくお願いいたします。

本当に本日はありがとうございました。

(中村知事)

どうもありがとうございました。

5 閉 会

(横田部長)

ありがとうございました。以上をもちまして交流会議を終了いたします。本日はご協力を賜り、ありがとうございました。